

ねっとうわーく 水沢

＜第 83 号＞ 2020 年（令和 2 年）10 月 10 日（土曜日）
編集・発行 水沢地区振興会内、水沢地区広報委員会
事務局 水沢公民館内 電話 758-3101 FAX 758-3102
E-mail:mizusawa-k@city.tokamachi.lg.jp

地区内世帯数・人口(8 月 31 日 現 在)
1,800 世帯 5,006 人
(男 2,454 人 女 2,552 人)
前年同月比
世帯 -15 人口 -95 人



長梅雨・酷暑を耐えて実りの秋

令和に入って 2 回目の稲作。令和 2 年の自然はあまりにも過酷で手厳しかった。
梅雨明けは 8 月にずれ込み、いきなり高温多湿、稲は軟弱。しかし稲作技術の向上、コシヒカリの品種改良の結果、以外にも米粒は大きく稲穂は重かった。



◆ 防災特集	◆ 振興会便り	◆ 商工会便り	◆ 駐在便り	◆ 学校・保育園だより	◆ 地域の黒板・水沢元気プロジェクト	◆ 特集記事	◆ 読者欄	・ 漢詩・編集後記・他
3	4	4	5	8	10	10	10	12

目次



防災特集

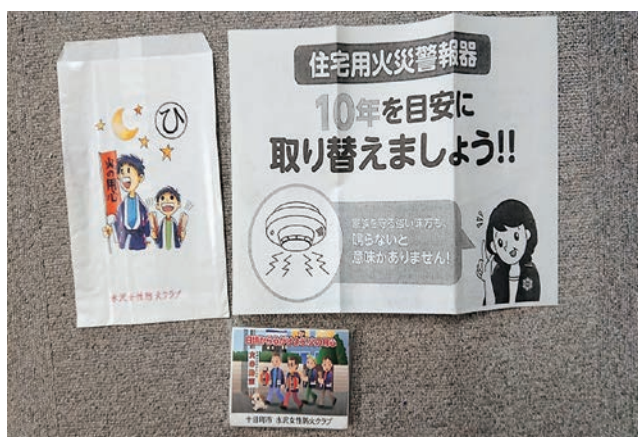
地域活性化を目指す、(県内7団体)
祝 2020年度県自治活動賞受賞

「まずは、出来ることから」

水沢女性防火クラブ

毎年 9 月の第 2 日曜日に行われていた水沢地域防災訓練ですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの行事が中止や延期になるという状況になり、水沢地域の防災訓練も規模を縮小し各集落において避難者数や安否確認等を行い速やかに本部へ報告をするという内容で行われました。

私達水沢女性防火クラブも防災訓練の日には、毎年いろいろな集落へ出向き消火器訓練等をする活動を行っていましたが、コロナ禍であるため出来るだけ接触する活動は行いませんでした。しかしこんなコロナ禍の状況においてもいつ、どんな形で災害が起こるか分かりません。またコロナ禍の状況だからこそ、やらなければならない事や備えておくべきことを新たに変わっていかねばならないようです。しばらくの間今までの様な活動は出来ないとしても、ソーシャルディスタンスを守りながら、今出来る活動として、私達水沢女性防火クラブは火災予防の啓蒙活動として各集落一軒ずつに「火の用心」のポケットティッシュを配布しています。またこれから、寒くなりストーブやこたつを使用する季節になりますので火の用心を心掛け、自分の命そして家族の命を大切にしましょう。



珠川地区安否確認訓練のようす



「家族の人数」「要支援家族の有無」「外出中の人数」など、地震発生時を想定して真剣に取り組む

振興会便り

新たな地域防災の確立に向けて

水沢地区振興会長 川田 一幸



令和 2 年度の水沢地区防災訓練は地域のご協力によりまして、すべての訓練が無事終了することが出来ました事に心から感謝と御礼を申し上げます。

今年の地区の防災訓練は、新型コロナウイルスに対応する中で、これまでとは違う試みで行われたものと思います。

日本列島は、何十年に一回しか来ないと言われている災害が毎年のように襲来している。明日は、我が身と考えなければならぬ日々である。新型コロナウイルスの出現から避難所の問題が大きな課題となっており、これまでのような考え方の避難所では対応できない事も事実であり自助、共助、公助と言われているように先ず自ら考え、共に考えながら地域に合った新たな避難の在り方を話し合うことが必要な時代になったように思います。これまでとは違う避難の在り方、又、安否確認の精度を上げる必要があると考えます。

さて、本年から、防災行政無線が使えるようになりました。訓練時には、初めての体験でもあったことから、訓練の時間に個別受信機からの音声が入り遅れてしまったこと、又、屋外のスピーカーの音声が聞こえなかったこと、個別受信機も聞こえなかったなど、様々なトラブルが発生しました。ただ、屋外のスピーカーについては、なかなか難しいところもあるという事でしたが、個別の受信機は受信しない家庭については、聞こえるようにしなければならぬということです。もし、個別にでもよいので、聞こえないご家庭がございましたら、振興会事務局にご連絡くださいますようお願いいたします。今年度中にすべて

の家庭が受信できる環境を整えてゆきたいと考えております。災害は忘れる前にやってくる時代になっております。地域全体で対応しながら対処できる体制づくりが急務となっている現状をご理解頂き、集落ごとや班ごと、組ごとに話し合う機会を作っていたくださるようお願い申し上げます。

コロナと災害

振興会副会長 福崎 良廣



今年は、コロナが終息しない中、防災訓練をやるのか中止にするのかという難しい判断が求められました。

自主防災連絡協議会で議論した結果、「コロナから約半年、いろいろな社会活動が中止となり、地域の活力が失われつつある現状に鑑み、コロナと付き合いながら防災訓練を実施することで地域の活力を向上させたい。」との思いがあり、合せて、十日町市が整備した「屋外スピーカー」、「個別受信機」のテスト使用を実施すべきだ。という意見もあつて、今年は 3 密を避けるなど、コロナ感染防止を図りながら地域全体で「安否確認」訓練に取り組むことに決定しました。このことについて、各集落の代表の皆様にお話ししたところ、快く承諾いただき、9 月 13 日水沢地域一斉に防災訓練が実施されました。当日は、公民館の電話機が旧式のため、「個別受信機」への通報が遅れるトラブルがあり、マニュアル通りでは通報できないことが判明し、実際にやってみることの重要性をあらためて感じました。訓練終了後、全集落の皆様から公民館の防災本部に訓練の結果を報告していただきました。「マスクを着用した」、「集合場所を複数にした」、「密にならないよう担当者が各戸を訪問した」等、コロナ感染防止対策を考えながらの訓練となったようです。大変ご苦勞様でした。全般的に「屋外スピーカー」の音量が小さく、

良く聞こえなかったという声が多く寄せられました。皆様からの情報は「個別受信機」も含めて取りまとめ、十日町市と協議して改善に繋げたいと考えています。

9月上旬の「台風10号」では、猛烈な風雨が予想され、広範囲に避難指示が出されましたが、コロナ感染防止対策で避難所の定員を削減したため、避難所が満杯となり、避難できない住民が発生する事態となったようです。水沢地域でも伊達集落を除き、避難所は馬場小学校、水沢中学校、水沢小学校となっており、全住民が殺到すると収容しきれません。避難指示が出たら、まず自宅にとどまるか、避難所へ避難する必要があるかどうかを判断することが重要になります。避難所は密になりやすく、コロナの感染リスクが高くなることを考えておかなければなりません。

自宅が危険な場合は近くの親戚や知人の家などへの避難も考えておきましょう。十日町市で作成した「洪水・土砂災害ハザードマップ」を確認しておくことも大切です。

毎年防災訓練に取り組んでいたと思いますが、繰り返すことにより防災力のアップを目指しましょう。

商工会便り



新型コロナウイルス感染拡大だからこそ変化を

水沢商工会長 富井 久雄

新型コロナウイルス感染拡大が、現時点では、まだその出口が見えていません。地域経済は業種を問わず、何らかの影響を受けているのは確かです。このまま自粛が続けば地域経済は死んでしまう可能性があります。今だからこそ出来ることがあるのではないのでしょうか。少子高齢化が進み人口減少が加速する中、地域をいかに活性化するか、

国の政策で昨今注目されているのが、観光でもない定住でもない地域外の人々との多様なつながりを考える「関係人口」という考え方です。

令和に入り、人々の価値観は確実に変化をしています。一つには「すべてが集まる東京が一番良い」という価値観が変化しています。特に新型コロナウイルス感染拡大でその傾向は強まっていると思います。インターネットによる情報革命で、居住場所による情報格差はほとんど無くなりました。買いたい物も、人と出会う機会も、学びの場所も、急速にオンライン化しています。ビジネスの世界でも大企業では社員の任意のタイミグで、オフィスから離れた場所で働くテレワークが進んでいます。一カ所に住み続けるのが普通という価値観が変化しています。人はもともと自由に移動して、自らが幸せを感じる場所を捜し求めるようになるのではないのでしょうか。

水沢地域にはゴルフ場が2カ所、スキー場もあります。秋にはサルナシと栗拾いも楽しめます。進化を続ける、日本を代表するリゾートホテル「ベルナテイオ」があります。外部の人から見れば大変魅力的な地域です。我が水沢地域は観光と物販、特にネット販売と観光をしっかりと両立することが一つのポイントではないのでしょうか。

そろそろ自粛に対して新しい生活様式を実践し、柔軟な姿勢で対応しながら、地域から元気をとりもどすことを目標にして、水沢商工会会員・職員一丸となって知恵を出して行きたいと考えています。今後とも地域の皆様のご指導とご協力をお願いします。

駐在便り



交通事故の防止に向けて

土市駐在所 風巻 完

日頃より、警察業務にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

土市駐在所に着任して半年が経過しましたが、新型コロナウイルスの影響により、地域の皆様と接する機会も少なく、地元駐在所員として少し寂しさを感じています。

新型コロナウイルスは、世の中にも大きな影響を与え、今夏は、東京オリンピック・パラリンピックが延期されるなど、まさに、異例と言える夏でした。そんな夏も終わり、最近では夕暮が早まるこの時期は、交通事故の危険性が非常に高まる時期でもあります。

このことから新潟県警察などでは、10月1日から10月31日までの1か月間、「高齢者交通事故防止運動」を実施しています。この運動は、この時期に多発する、高齢者が被害者となる交通事故や、高齢運転者による加害事故などの防止を図ることを目的としています。

本運動の重点は

○ 高齢運転者の交通事故防止

○ 道路横断時の安全確認と夜光反射材の積極的な活用

○ 早めのライト点灯とこまめな切り替え

の3つとなっています。

加齢による身体能力の低下は誰にでも起こります。自身が加害者にならないよう、安全運転を心がけましょう。

また、昨年交通事故で亡くなった高齢歩行者の半数以上は、道路の横断中でした。確実な左右の安全確認や、夜光反射材の積極的な活用で事故に遭わないようにしましょう。

そして、夕暮れが早まるこの時期は特に、早めにライトを点灯して車の存在を周りに知らせましょう。また、夜間、対向車がないときはハイビームを使用して前方の視界を確保しましょう。

悲惨な交通事故を1件でも減らすためには運転者、歩行者一人ひとりが、事故を起こさない、事故に遭わないよう心掛けることが大切ですので、これを良い機会と捉え、交通事故防止へのご協力を宜しくお願いいたします。

私も土市駐在所員として、積極的に街頭活動を行い、交通事故などを未然に防止し、水沢地域の皆様の安全安心を守るよう引き続き努力して参ります。

学校便り

【水沢中学校】

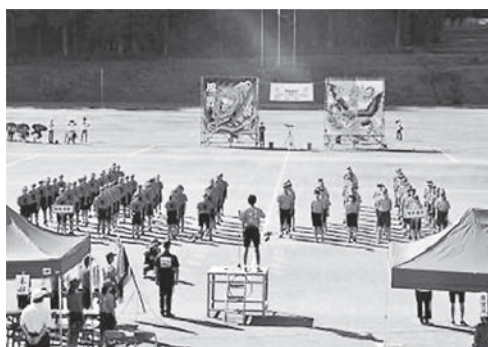
水沢中学校 2学期がスタートしました

水沢中学校長 山本 俊介



8月31日（月）から2学期がスタートしました。夏季休業中は、大きな病気やけが、事故などもなく、生徒たちは充実した休みを送っていたようです。御家庭、地域の皆様からは、休業中の生徒たちを見守っていただきありがとうございますました。

9月5日（土）には、水明体育祭を行いました。新しい生活様式のもとで、例年どおりでなく、新たな試みを取り入れたの体育祭でした。



7月から約2ヶ月間、生徒会が中心となって、知恵を出し合い、新たな体育祭を創り上げてくれました。また、当日までの準備活動や練習、そして体育祭本番において、生徒会のスローガンのとおり「たくさんの笑顔を咲かせる」ことができました。コロナ禍にあっても、前向きに物事を捉え、新たなものを生み出す生徒たちの力を感じた体育祭でした。

体育祭当日は、来賓、生徒の御家族の皆様からおいでいただき、温かい声援を送っていただきました。深く感謝申し上げます。

学習面の充実に向けて

・グループ内で一緒に考えたり、教え合ったりすることで、自分もその問題について 深く考えることができた。

・教える側になってみて、今まであまり意識しなかった「相手が理解しやすいように 教える」などのことを意識するようになった。また、自分にとって復習になった。

・数学で、1、3 年生で協力して問題を解くことが楽しかった。一緒に解いたり、仲間の解説を聞いた方が頭に入るので楽しかった。

これは、1 学期を延長した 7 月 27 日から 30 日に行った全校数学・英語の授業に対する生徒たちの感想です。この授業では「学び合い」を重視して、生徒の主体性による学習の機会としました。授業後の全校生徒を対象としたアンケートからは、学習が大変充実していた様子がうかがえました。

地域の皆様の御支援に支えられ

例年、水沢地区商工会の皆様の御厚意で、地域の保育園、小・中学校の施設等の整備を行っていただいています。今年度も、8 月 22 日(土)に各校園で整備作業を行っていただきました。当校では、体育館玄関階段のタイルの補修、音楽室の床の汚れの除去等を行っていただきました。

御多用の中、作業をしていただいた商工会の皆様には深く感謝申し上げます。生徒とともに、地域の皆様に支えられていることに感謝し、教育活動の一層の充実に努めてまいります。

御多用の中、作業をしていただいた商工会の皆様には深く感謝申し上げます。生徒とともに、地域の皆様に支えられていることに感謝し、教育活動の一層の充実に努めてまいります。



【水沢小学校】

新学期の目標

水沢小学校長 青柳 康仁



子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。いつもとは少し違う夏休みではあったと思いますが、一人一人が楽しい思い出をたくさん作ったようです。

始業式には、二期生の目標として三つのことを話しました。それは、「スタートを大切にすること」「自分を成長させること」「友達を大切にすること」です。スタートについては、二期生の初日だけでなく、一日の始まりである朝は爽やかな気持ちで臨むこと、授業の一時間毎の始まりをきちんと守ることなど、気持ちを切り替える大切さを話しました。

今年の二期生は、修学旅行や自然教室、運動会など、例年とは異なる行事があります。最大の行事である運動会は、すでに応援団も立ち上がり、制限はあるものの、本気で取り組む子どもの姿が見られます。自分自身を成長させながら、水沢小の絆を一層強くしてくれるものと思います。

日々の生活で最も大切にして欲しいことは、お互いに「素敵な友達」になることです。本気になって遊び、学ぶこと、お互いの立場や気持ちを思いやることを通して、実現して欲しいと思っています。

話は変わりますが、九月一日は水沢小学校の創立記念日です。この日に合わせて、今年度は、明治四十四年一月九日に制定された「校訓」を子どもたちに紹介しました。

「校訓」は、百年以上前のものですが、子どもたちに伝えたいこと、身に付けさせたい力に、今も昔も違いはないのだと思います。まさに「不易」です。この「不易」を共有し、保護者や地域の皆さんと協働しながら、子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

始業式に当たりて、かねて熟議を重ねし校訓を發表し、本校の精神として遵守すべく訓示す
〔校訓〕
 一、 誠実にして元氣あれ
 二、 自分のことは自分でなせ
 三、 堅く規律を守れ
 四、 礼儀を正しくせよ
 五、 人のためになることをなせ

【認定こども園あおのもり】

あおのもりのお庭

あおのもり園長 宮沢 希央



こんにちは、土市にできた新しい認定こども園『あおのもり』です。地域の皆様には日頃の温かいお見守りに感謝申し上げます。現在園児 114 名、お家の方の体調管理と毎日の手洗いのおかげで、皆とつても元氣です。8 月のプール水遊びで真っ黒に日焼けした子どもたち、今はお庭での運動遊びに汗をかき元氣に遊びまわっています。

あおのもりのお庭は通りからよく見えませんが・・・伊達の造園屋さんがきれいに植えてくれた緑の芝生、小黒沢の重機名人が整地してくれたプリンみたいな築山、新宮の工務店さんがプレゼントしてくれたのは世界大会に出場した大工さんが作った三角屋根のお家・・・高級遊具はありませんが、皆さんの思いが詰まったお庭で、子どもらしい自由な発想で遊んでいます。

園を訪れるお客さんは、お庭の中にある



自然教室の 1 コマ

木々が素敵ですねと言ってくれます。桜、ナラ、柿。ある日、柿の木の窪みに精いっぱい背伸びして、どんぐりを詰めている年長の女の子「リスの冷蔵庫なんだよ」・・・なんと、まあ！素敵すぎるコメント。
 そのまんま、キミのまんまで、大きくなつて。

【水沢南部保育園】

生まれて初めて受ける教育は家庭教育

水沢南部保育園 園長 富井 茂



小学校教員生活三十八年間、常に考えていたことは、家庭教育の重要性でした。子どもが生まれて初めて受ける教育は家庭教育（躾）です。四月から水沢南部保育園で園長を務めています。園長就任依頼をお受けした理由の一つが小学校教員時代に感じていた「小学校に来てからでは遅い」ということでした。子どもは生まれてくる家庭や両親を選べません。どんな家庭や両親の元に生まれるかは、その後の人生にとって大きな影響を及ぼします。「子育ては、親育ち」と言います。子どもと共に親も一人前の親になるように努力が必要です。人としても親としても、少し先輩の私が子育てに悩む親御さんに何か助言できたらいいなあと考えています。幸いなことに保育園は送迎時に両親や祖父母と会話をする機会が多く、意思疎通がしやすい環境にあります。この環境を大切に、些細なことでも相談できる信頼関係を築き、安心して子どもを預けていただける保育園を目指していきたいと考えています。

先日、NHKの特集で「叱れない親」の特集が放送されていました。都会では、レストランやスーパーで走り回る我が子に注意できない親が増えてきているそうです。中には「お子様連れ、お断り」のレストランもあるそうです。また、「躾やマナー」を教育活動として教えている幼稚園もあると報道していました。これを見て、私は衝撃を受けました。

私が今までに取り組んできた学校教育活動や自分の子育てで心がけてきたことを紹介します。

子育ての心がけ七箇条

- 一、親と子どもとのふれあいの時間や会話を大切にしましょう。
- 二、夫婦仲良く、家族の和合を大切にしましょう。
- 三、頑張ったことは大いに褒め、間違ったことはしっかりと叱りましょう。
- 四、自己決定する機会を大切にしましょう。
- 五、親が手を出しすぎず、自分のことは自分でできる子どもにしましょう。
- 六、スキンシップを大切にし、愛情をたっぷりとかけましょう。
- 七、家庭内の言語環境（優しい言葉を使う）を整えましょう。

地域の黒板

コロナ禍のなかでの取り組み

養護老人ホーム妻有荘 施設長 田中 保雄



日頃より、社会福祉法人妻有福祉会及び養護老人ホーム妻有荘の運営に際し、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、新型コロナウイルスにより、皆様の生活はいかがでしょうか。養護老人ホーム妻有荘及びつまりの里においても新しい生活様式での生活を余儀なくされ、外出や面会の制限、各種行事の中止など妻有荘入居者やご家族様にもご不便をおかけしている状況が続いております。また、デイサービスやホームヘルパー等の在宅サービスにおいても、利用時の検温、手洗い、うがいの実施など感染対策を徹底するなかでの利用に努めています。そんな状況のなか、入居者や在宅サービスをご利用いただい

ているお客様のみならず、職員の負担も増していますが、妻有荘では少しでも豊かな生活を送っていただけるよう畑仕事や軽作業の実施、デイサービスにおいては、密を避けた形でのレクリエーションなどの取り組み、特に今年度から機能訓練を強化しており、10月からは更にリハビリ機器を導入して、より一層お客様にご満足いただけるよう努めていく予定です。新型コロナウイルスの収束が見えないなか、発熱等があるご利用者には利用を制限していただく対応をしておりますが、過剰な制限はしないよう心掛けています。サービスを利用していただくことで在宅生活が継続できるお客様がたくさんいらっしゃると思います。過剰な制限をすることで在宅生活が続けられなくなることは避けなければなりません。今後も新型コロナウイルスを「正しく恐れ」、過剰な制限等をせず、入居者、お客様の要望により柔軟に対応していきます。幸いにして感染者が出ていない状況が続いています。これも入居者、お客様、ご家族様、ひいては地域の皆様の意識、努力の賜物と強く感じる次第です。これからも地域の役立つ社会福祉法人として研鑽していく所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



妻有荘での
取り組みの様子

活気にあふれ、安心して暮らせる地域づくりを

『みずさわ元気プロジェクト』スタート

水沢地区振興会として、地域の様々な課題をどのように解決したらいいかを考えていく『みずさわ元気プロジェクト』をスタートしました。地域の皆さんが元気に、そして安心して暮らしていくためにはどんなことに取り組んでいけばいいのかを考えていきます。当面の活動として次のようなプロジェクトを掲げました。

●芸術などを活かした地域活性化プロジェクト

…地域の資源である「大地の芸術祭」や芸術的な体験を活かして、地域の子どもたちの心・感性を育むためにできることを考えます。また、地域に豊かさをもたらし、地域住民の皆さんに活気と豊かさをもたらすような取り組みを考えていきます。

●安心安全な地域づくりプロジェクト

…高齢化が進み、日常の生活に不便を感じる人が増えてきています。また、自然災害が頻繁に起こり、地域の自主防災体制のあり方・支え合いのあり方が問われています。地域の皆さんが安心して暮らしていけるようなしくみ・環境づくりを考えていきます。



集落の危険個所を地図に洗い出す図上訓練
（昨年 9 月開催の十日町市総合防災訓練にて）

こんな活動にふるさと納税を活
かせたらと考えています



土市駅前の作品受付ボランティア活動をする
小学生と大学生（今年 8 月夏の芸術祭にて）

ご協力ください！地域の活動に「ふるさと納税」を活用します。

地区振興会の様々な活動は、皆さんからいただく会費と行政（市）からの交付金によって成り立っています。新しい活動を行うため、またこれまでの活動を維持していくためには、自分たちでも資金を集める努力が必要です。そこで、ふるさと納税による寄附を活用する方法を考えています。

同窓会等の場で、普段は市外に住んでいる水沢地区出身の方に寄付をお願いする、地元で作っている農産物（米など）や加工品をふるさと納税の返礼品に登録して、寄付先に水沢地区振興会を指定してもらう。など、ふるさと納税の寄附を募るための方法を、地域の皆さんからも一緒に考えていただきたいと思います。ふるさと納税を呼びかけるような機会がありましたら、ぜひ振興会事務局にお知らせください。

コロナウィルス禍で、都会から地方に拠点を移してオンラインで働く人や、大地の芸術祭などでこの地域を訪れてくれる方にも、水沢地区の応援団になってくれるような関係づくりができたらと考えています。関係づくりをすることが、ふるさとの納税の寄附にもつながると考えます。そして、このような関係づくりのために、水沢地区を訪れてくれる人への温かいおもてなしのご協力をぜひお願いいたします！

ふるさと納税とは

生まれた故郷や応援したい自治体に寄附できるしくみのことです。寄附した場合、確定申告をすると所得税と住民税の還付・控除を受けることができます。

寄付先には、市町村の他に水沢地区振興会など地域自治組織を選べるようになっています。また、寄附の金額に応じて十日町市からの返礼品を選ぶことができる、寄附をする人にとっては魅力的なしくみになっています。

水沢地区へのふるさと納税の方法は

1. インターネットで「ふるさとチョイス」のホームページから手続きをする方法

- ① 「ふるさとチョイス」のホームページから「十日町市」のページへアクセス
- ② 十日町市の返礼品を選ぶ（寄付金額を決める）
- ③ 寄附金の使い道を選ぶ → 『地域自治組織の支援「水沢地区振興会」』を選ぶ（寄附金の送金の仕方はクレジットカード、郵便振込・銀行振込から選べます）

2. 申込書で寄附の手続きをする方法

水沢地区振興会事務局まで連絡してください。振興会への寄附用の申込書類を送ります（寄附する人は、申込書を十日町市役所に送ることになります。寄附金の送金の仕方は郵便振込または銀行振込です）。

* 寄附金は、十日町市役所を経由して水沢地区振興会に届くようになります。

* 上記 1 と 2 のどちらによる方法でも、十日町市の返礼品を選ばないこともできます。その場合、返礼品分の金額が寄附金として多く水沢地区振興会に届くことになります。



芸術祭の作家さんと保育園児によるお絵かきワークショップ

こんな活動にふるさと納税を活かしたらと考えています



高齢者の健康づくり・見守り支援活動

特集記事

新型コロナワクチン開発の道のりは長いだろう。

今、世界はコロナウィルスのワクチン開発に躍起になっている。しかし、コロナのワクチンを作ることはとても難しい。なぜならどうもこのウィルスは種類が多いようだ。クルーズ船のコロナと日本のコロナウィルス、ヨーロッパのウィルス、それぞれ型が違うようだ。

ワクチンは免疫細胞に武器を持たせる皮下注射。それぞれのウィルスに合いカギがぴったり合うワクチンを開発しなければ効果は期待できない。ウィルスの型が多ければその数だけピッタリの合いカギワクチンを作らなければならないのだ。例を挙げると、はしかウィルスは 1 種類だから、はしか



ウィルスを鶏卵培養することでカギがぴたりと合う、だから効果もある。したがって、はしかはワクチン製法が確立している。

コロナウィルスは 1 種類ではなく多種類が存在する、インフルエンザウィルスは 360 種類あるという学説もあるのだ、ぴったり合わなくてもオールマイティワクチンが考えられる。効果は薄い、また、課題もあるがそれはできるかも？

蛇足ではあるが、今のワクチンは予防専門、鶏卵培養など他の動物のタンパク質を使うから 2 回注射が限度。3 回やれば異種タンパクに強い拒否反応が起こる可能性が大。

通信員 I・F

かぼちゃのアート

暦の上では既に秋でしたが、9 月 2 日全国でも最高気温を記録した猛暑の中、馬場小学校の体育館では、3・4 年生計 17 名の児童は総合学習の授業で講師の地域おこし協力隊の佐藤茂美さんと中在家の樋口さんの指導のもとかぼちゃの絵付けを行いました。

体育館には観賞用の大きなかぼちゃ 20 個ほどが用意され、形や大きさもいろいろなためそれぞれ自分のかぼちゃを選んで絵付けを行った。実は 1 学期にも総合学習の授業で「石ころアート」をやっていたため、担任の先生からかぼちゃの絵付け授業の話をした時に子供達はみんな「やりたい!!」とやる気満々だったという。

事前に考え下書きをしてきたようで、子供達は直ぐに取り掛かり、目をキラキラさせ夢中で自分のかぼちゃに絵を描いていました。いろんな形のかぼちゃたちはいろんな絵を描いてもらい、かぼちゃも喜んでいるのでも見えるようにも見えました。世界に一つしかない自分だけのかぼちゃを完成させることが出来て満足したようでした。せっかくですので、担任の先生と教頭先生も一緒にかぼちゃの絵付けをやり楽しんでいました。最後に完成したかぼちゃと一緒に記念撮影をして、講師である佐藤さんと樋口さんにお礼の言葉を伝えて授業が終わりました。子供達の感想は、「難しいかなと思ったけれど、石ころアートをやっていたから、楽しくできた」「かぼちゃに絵を描くのは初めてだけれど、イメージ通りに自由に描くことができて良かったと思う」と子供たちみんな大満足な様子でした。可愛らしい絵や面白い絵などいろいろで私も楽しく取材をさせて頂きました。有難うございました。

ちなみに、去年の 10 月号でも中在家集落の方たちが取り掛かったかぼちゃアートの記事を掲載させて頂きました。もちろん今年も樋口さんを中心に作った花と手作りの木造看板や木で作った動物やかぼちゃアートが県道のチェーン脱着場に広がっていました。



中在家多面的活動団体 「全国花のまちづくりコンクール」受賞

昨年の今頃にもかぼちゃアートで取材させていただいた中在家集落の住民による活動は、県道沿いチェーン脱着場の花壇に今年も県からの補助金を利用して年明けから花壇のレイアウトを計画し、雪解けと同時に苗作りとなり、5 月にはようやく花壇に苗を植える作業になる。参加者の皆さんは、慣れた手付きで楽しみながら作業をして生き生きしていた。

地域住民や花壇の前を通った方から、「きれいだね～、癒される」などの声もあったことから、今年は花のコンクールに応募することになり、地域おこし協力隊の佐藤茂美さんや地域振興局の方より推薦・協力を頂き「全国花のまちづくりコンクール」に応募することになった。初めての応募で少し不安もあったが、全国の取り組みの中でも優秀な活動と認められ 9 月 25 日付けで団体部門「花のまちづくり」入選を受賞することができました。受賞をきっかけにさらに今後の活動にも力が入り地域住民や、県道を通る方を癒してくれることでしょう。

中在家集落の活動参加者の皆様、おめでとうございます。これからも通る人々を楽しませてください！！



な一してらんだて
はよ作業しれそ！

漢詩

真逆の友



然	鳴	如	越
汝	呼	驚	苦
在	逝	驚	楽
胸	貴	巡	而
膈	公	州	不
勵	無	唱	盡
教	念	遊	想

誠風

次回は 1 月 10 日

発行予定、お楽しみに。

◆編集後記◆

新型コロナウイルスの先行きがまだまだ見通せない状況ですが、そんな中、水沢地区では、ミシュランガイド新潟に三軒掲載されました。調査員が全部の店を回るわけではないので、運もありますが掲載されるレベルなのは間違いないので、大変だと思っていますが、これからもレベルを維持していくてくたさい。水沢地区は他のお店も美味しい所がいっぱいなので、開催中のグルメ街道まつりでいろいろなお店を楽しみましょう。みんなで水沢地区を元気に！

通信員 上村・H

